

2019年2月
No.19-019a(全)※5

検査報告書変更のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、この度、このたび下記検査項目におきまして、別紙報告書の内容を変更させていただきたく、ご案内いたします。

誠に勝手ではございますが、事情をご賢察の上、何卒ご了承の程お願い申し上げます。
敬具

記

■対象項目

- [4883] 男性 AICS(5種)
- [4884] 女性 AICS(6種)
- [—] 男性 AIRS
- [—] 女性 AIRS

※変更内容は裏面をご確認下さい。

■変更期日

- 2019年3月29日(金)ご報告分より

男性 AICS(5 種)、女性 AICS(6 種)、男性 AIRS、女性 AIRS

解析委託先である味の素株式会社より、報告書内容変更の申し入れがありました。

つきましては、以下の点について変更させていただきます。

■変更点

- より見やすいプロット記号とするため、表面の AICS 値を示すプロット記号が「*」から「●」へ変更となります。
- 各ランクでのがんである可能性【倍率】内の「有病率データ^{※1}」が「罹患率データ^{※2}」へ変更となります。罹患率データへの変更で、各がん種に即したより正確な説明が可能となります。

※1:岡本直幸:人間ドック 26(3):454-446(2011)味の素株式会社共同研究プロジェクト提供

※2:国立がん研究センターがん情報サービス:地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975~2012 年)

■別紙報告書 表面

変更後



変更前



■別紙報告書 裏面

変更後

各ランクでのがんである可能性【倍率】		低い ← がんである可能性 → 高い			
ランク分類	AICS値	罹患率	ランクA	ランクB	
項目			がん種	0.0~4.9	5.0~7.9
AICS(胃)	胃がん	0.1036%	1/3,088[0.3倍]	1/603[1.6倍]	1/95[10.2倍]
AICS(肺)	肺がん	0.0887%	1/3,342[0.3倍]	1/604[1.9倍]	1/125[9.0倍]
AICS(大腸)	大腸がん	0.1325%	1/1,510[0.5倍]	1/596[1.3倍]	1/92[8.2倍]
AICS(腎臓)	腎臓がん	0.0273%	1/12,744[0.3倍]	1/2,893[1.3倍]	1/316[11.6倍]
AICS(前立腺)	前立腺がん	0.1179%	1/1,885[0.5倍]	1/398[2.1倍]	1/133[6.4倍]
AICS(乳腺)	乳がん	0.1264%	1/1,194[0.7倍]	1/440[1.8倍]	1/198[4.0倍]
AICS(子宮・卵巣)	子宮がん・卵巣がん	0.0858%	1/4,660[0.3倍]	1/794[1.5倍]	1/100[11.6倍]

各種がんの罹患率を基にした場合の、がんである可能性

出典:味の素株式会社共同研究プロジェクト 提供

上の表は、がん種ごとに、現在がんであるおよその確率をランク別に示したもので。例えばAICS(胃)では、ランクAでは3,088人に1人が、ランクBでは603人に1人が、ランクCでは95人に1人が、胃がんであることを示しています。

【】内は各種がんの罹患率を1とした場合の、がんである倍率を示しています。

*罹患率は、2012年の全国年齢階級別定罹患率(出典:国立がん研究センターがん情報サービス:地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年~2012年))に基づき、%表記に換算しています。

変更前

各ランクでのがんである可能性【倍率】				
ランク分類	ランクA	ランクB	ランクC	高い
AICS値	0.0~4.9	5.0~7.9	8.0~10.0	高い
項目	がん種			
AICS(胃)	胃がん	1/3,200[0.3倍]	1/625[1.6倍]	1/98[10.2倍]
AICS(肺)	肺がん	1/2,963[0.3倍]	1/536[1.9倍]	1/111[9.0倍]
AICS(大腸)	大腸がん	1/2,000[0.5倍]	1/789[1.3倍]	1/122[8.2倍]
AICS(腎臓)	腎臓がん	1/3,478[0.3倍]	1/789[1.3倍]	1/86[11.6倍]
AICS(前立腺)	前立腺がん	1/2,222[0.5倍]	1/469[2.1倍]	1/156[6.4倍]
AICS(乳腺)	乳がん	1/1,509[0.7倍]	1/556[1.8倍]	1/250[4.0倍]
AICS(子宮・卵巣)	子宮がん・卵巣がん	1/4,000[0.3倍]	1/682[1.5倍]	1/86[11.6倍]

一般の方が、がんである確率(有病率)を10,000人に10人(1/1000)とした場合の、がんである可能性

出典:岡本直幸:人間ドック 26(3):454~466(2011)を改変。味の素株式会社共同研究プロジェクト 提供

上の表は、がん種ごとに、がんであるおよその確率をランク別に示したもので。一般的に、10,000人に約10人(約0.1%)が、がんであると言われています。例えばAICS(胃)では、胃がんの有病率(一般の方が、胃がんである確率)を10,000人に10人とした場合に、ランクAでは3,200人に1人が、ランクBでは625人に1人が、ランクCでは98人に1人が、胃がんであることを示しています。

【】内は一般の方の有病率を1とした場合の、がんである倍率を示しています。